



2学期が始まり1週間が経ちました。少しずつ、学校生活にも慣れてきているようです。

夏休み中、子どもたちの事故やケガ等の連絡は無く、安全に元気に過ごすことができたことをうれしく思います。これも保護者の皆様のお陰と感謝いたします。

これからまだ残暑が続きますが、学校生活を楽しく過ごし、心身ともに健やかに成長してくれることを願います。2学期も本校教育にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

【南郷くろしお祭り・8/24】

6年生が「ソーラン節踊り」を披露してくれました。とても勇壮に踊り、多くの観衆から拍手をもらいました。ありがとうございました。

花火大会も感動的でした。すぐ側から上がり水面上で飛び散る花火や滝のように火の粉が降り注ぐ花火など見応えのある花火大会でした。ご協力いただきましたPTAの皆様、ありがとうございました。



【第2学期始業式・8/26】

2学期の始業式がありました。子どもたちは元気に登校してきました。この時期子どもの自殺が問題になって取り上げられますが、南郷小ではそういったこともなく、安心して居るところです。2学期は、修学旅行（6年生）、運動会南小フェスタなど大きな行事があります。これらの行事を乗り切り、大きく成長してほしいです。



【学校給食の共同調理場方式開始：8/27】

8/27から、給食は中央共同調理場からの配送になりました。初日のメニューは「麦ご飯、豚肉の生姜焼き、みそ汁」でした。温かく、おいしかったです。量が多かったのか、残食があったようです。どんな給食になるのか心配でしたが、準備から片付け、内容と安心したところです。好き嫌いなく食べて、大きくなってほしいです。



9月の主な行事

4日(水)	参観日	26日(木)	修学旅行(6年生)
5日(木)	PTA研修視察	27日(金)	・鹿児島
11日(水)	PTA役員会・運営委員会	29日(日)	・知覧、南九州市
12日(木)	榎原小学校との交流		PTA奉仕作業

裏面もご覧ください

歳時記

「宿題」の始まり

学校では、「宿題」を出します。この宿題の始まりは、江戸時代の狂歌師「大田南畝」（おおたなんぼ）が始まりと言われています。知人に宛てた書簡の中で、詩会の“お題”を予め示しておくこといわば“予習”を「宿題」と呼んだそうです。

学校での宿題は明治に入ってから急速に広まりました。明治5年（1872）に「学制」が發布され、欧米をモデルにした教育制度が始まります。明治14年に「夏季休業」が定められ、全国に広がります。4月に新学年が始まり、軌道に乗りかけた頃に「夏季休業」が入るので、理解した内容が途切れることを防ぐために宿題を出し、学力の維持に努めようとしたのが日本の宿題の始まりだとされています。

ベネッセ教育総合研究所の調査（2016）によりますと小学校の95%の先生が、「毎日宿題を出している」ということでした。宿題を出すのは、

- 家庭学習の習慣化を図る。
 - 予習や復習により、学習を定着させる。
- が、主な目的になります。

さて、お子さんは宿題が好きでしょうか、嫌いでしょうか？ほとんどの子どもが、「宿題は、嫌い。」と言います。理由は、

- 難しい。
- 量が多い。
- 習い事等で、宿題が遅くまでかかる。
- テレビ視聴やゲーム等ができない。
- 面倒くさい。

等々です。積極的に取り組む子どもは、そういないようです。中には、宿題をしない、忘れる等の子どももいます。宿題に進んで取り組むようにさせるにはどうしたらいいのでしょうか。それは、「やる気をもたせる」ことです。やる気をもたせるには、

- わからない問題は、一緒に解く。わからないことを怒らない。
- 量が多いときには、側にいて励ます。急がせない。
- 宿題を終えることができたなら、褒める。達成感を味わわせる。

等保護者が、一緒にその時間を過ごすことが有効です。しかし、そんな時間をもてない家庭もあります。その場合は、見届けてあげましょう。文字が乱れていたり、間違っていたりすることがあるかもしれませんが、それでも、がんばったことを褒めましょう。その後で、否定せず「この文字はどうか？」とか「これ合ってるかな？」と問いかけましょう。自分で気づき、なおしていきます。どうしても、宿題をやり遂げることができなかつたら、無理せず、先生にその理由を言いましょう。夜遅くまでかかって宿題をするよりも「早寝、早起き」が大切です。睡眠が十分でないと学校で眠く、学習に集中できませんので、学習が理解できなくなります。理解できないと宿題がわからない、宿題が終わらない、遅くまでかかる……悪循環の繰り返しになります。子ども時代に必要なのは、十分な運動と睡眠です。いっぱい遊んでよく眠ることが健やかな成長につながります。量が多い場合（夜遅くまでかかる）は、先生に相談ください。せめて、宿題が嫌で学校を渋ることがないようにしたいものです。

